

テーマ

意思決定メカニズムの解明

適用分野

金融・行動経済学



研究名称

選好・感情が選択及び期待に与える影響と合理的選択へ誘導するナッジの有効性について

氏名所属

木成勇介 教授
マネジメント創造学部

内容

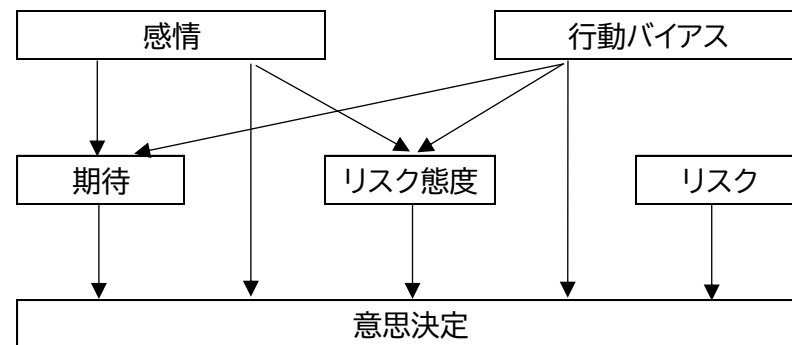
●特徴

朝食に何を食べるか、何色の服を着て出かけるか、出社するか、それともサボって遊びに行くか。私たちの毎日は決断の連続です。この決断の中に潜んでいる人の心理や感情、考え方のクセや性格が経済活動にどのような影響を与えるのかを考えるのが行動経済学。現実の人間には、理解に苦しむ点がたくさんあります。老後の生活が心配で日々年金について考えながらパチンコへ行く人は何を考えているのだろう。タバコを吸いながら禁煙を薦める医者は何をを考えているのだろう。人は何を考え、どのように行動を決めているのか。現実の人間の意思決定メカニズムを明らかにし、日々の選択を改善することで社会全体をより豊かにすることを目指すのが行動経済学です。

●研究内容

これまでに、将来のことに対しては辛抱強いが直近のことに対しては衝動的になってしまう「現在バイアス」や自身の能力を本来よりも高く見積もってしまう「自信過剰バイアス」が資産選択や報酬選択

に影響を与えることを明らかにしてきました。また、人が将来を予想するとき、現状とあまり変わらない将来を予想する「現状維持バイアス」が存在することも明らかにしてきました。



どのようなバイアスがどのように意思決定に影響を与えるのかを解明することを目指しています。このメカニズムを明らかにすることで、人々の選択を望ましい選択へと誘導することも可能かもしれません。強制ではなく自主的に選択を誘導する「ナッジ」の具体的方法と有効性についての研究も行っています。

キーワード

期待、選好パラメーター、効用関数の形状、感情、意思決定、ナッジ

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究